

# 第14回京都府肝炎対策協議会 開催概要

## 1 日時

令和4年12月14日（水）午後6時から午後7時まで

## 2 場所

オンライン（zoom）

## 3 出席者（所属団体順）

肝炎対策協議会委員 12名

高井 淳 京都大学大学院医学研究科 助教（消化器内科学）  
山口 寛二 京都府立医科大学大学院医学研究科 講師（消化器内科学）  
友沢 明德 一般社団法人京都府薬剤師会 常務理事  
長谷川 泰子 公益社団法人京都府看護協会 第一副会長  
中島 智樹 京都済生会病院 診療部長・感染制御部長  
（京都府感染症対策委員会 肝炎部会長）  
香川 恵造 一般社団法人京都府病院協会 監事  
富士原 正人 一般社団法人京都私立病院協会 副会長  
田中 征一郎 京都肝炎友の会 世話人  
今崎 匡裕 京都市保健福祉局医療衛生推進室医療衛生企画課 感染症企画担当課長  
田口 茂仁 宇治市健康長寿部健康づくり推進課 課長  
畑中 博之 井手町保健センター 所長、井手町地域包括支援センター 所長  
時田 和彦 京都府南丹保健所長

京都府医師会理事 禹委員については欠席

ほか 傍聴者 5名

## 4 議題

- 令和3年度及び令和4年度の京都府の肝炎対策について
- 肝炎コーディネーター制度について
- 次期保健医療計画策定に向けた課題及びスケジュールについて

## 5 内容

### <概要>

以下について意見が出された。

- ・ 啓発活動における患者会の協力体制について
- ・ 肝炎コーディネーターの活動支援及び新規対象職種について
- ・ 次期保健医療計画策定に向けた課題について  
肝炎ウイルス感染者に関する啓蒙活動について  
肝がん・重度肝硬変治療研究促進事業における対象者数の実態について

## (1) 挨拶（中川保健医療対策監）

## (2) 協議事項及び報告事項

互選により、京都済生会病院診療部長・感染制御部長（京都府感染症対策委員会 肝炎部会長）の中島委員を座長とし、協議事項及び報告事項について事務局から資料に基づき説明。

### 協議事項及び報告事項についての意見・質疑等

＜令和3年度及び令和4年度の京都府の肝炎対策について＞

- (委員意見) 肝炎患者については患者会が最も理解していると考えており、患者会は啓発活動にできるだけ協力したいと考えている。一方で、「知って、肝炎プロジェクト」が京都府内で実施されると当初知らされた際に、患者会は参画を希望したが、通らなかった。
- (事務局) →「知って、肝炎プロジェクト」は厚生労働省が京都府内で行う事業である。京都府としては厚生労働省に対して様々な企画案を提示したが、啓発活動の具体的内容及び実施にあたっては厚生労働省にて決定されるプロジェクトである。
- (委員意見) →京都府としては、患者会と連携した企画案を提示したか。
- (事務局) →そのとおり。
- (委員意見) →京都府の今後の活動においても患者会を活用いただき、できるだけ患者のためになる啓発を行っていききたい。

＜肝炎コーディネーター制度について＞

- (委員意見) 全国においても、肝炎コーディネーターの活動事例は十分に挙がっていない。肝炎コーディネーターを養成しても、一方で何をすべきか理解が浸透していないため、活動を後押しする方策が必要である。京都府では肝炎コーディネーター通信など、活動を後押しする取組を行っており、全国で最も進んでいる自治体と考えている。
- (委員意見) →活動を後押しする取組の実態はいかがか。
- (委員意見) →患者側において、肝炎コーディネーターに関する認知度が低い。患者側へ周知せねば、養成した肝炎コーディネーターが活用されない。
- (事務局) →養成した肝炎コーディネーターに対しては基本的な活動内容について説明しているが、肝炎コーディネーター通信に具体的な活動事例を掲載するなど、事例共有する方法を検討している。患者側への周知方法については今後検討する。
- (委員意見) →具体的な活動事例の共有は必要な取組といえる。肝炎コーディネーター通信のみならず、研修の機会でも採り上げていただきたい。
- (委員意見) →肝炎コーディネーターが活動内容を模索している側面もある。活動内容をフォローして発展させていく方向を含め、検討いただきたい。

- (事務局) →具体的な活動事例を共有する場が少ないとの御意見をいただいております、活動を支援していきたい。
- (委員意見) 肝炎コーディネーターの新規職種への拡大についてはいかがか。肝臓専門外来の職員などから、受講希望が寄せられている。
- (委員意見) →栄養士は食事指導を行うなど、肝疾患患者と接する機会が多い。栄養士を配置する薬局が増加している背景もあり、既存職種（薬剤師）から新規職種（栄養士）への拡大を行いやすい。

#### <次期保健医療計画策定に向けた課題及びスケジュールについて>

- (委員意見) 肝炎ウイルス感染者が歯科治療を断られたとの事例がある。感染者の受診に対応できていない個人医院が存在すると示唆される。医療者側における意識の醸成に課題があると考えられるため、感染者に対する差別防止について保健医療計画に盛り込むことはいかがか。
- (委員意見) →感染者に関する啓蒙活動に検討の余地がある。
- (委員意見) エプクルーサ配合錠（C型慢性肝炎及びC型代償性肝硬変に対する適応追加）の使用は、今後、より一層推奨されるか。
- (委員意見) →エプクルーサ配合錠は肝障害の少ない薬剤であり、適用となる新たな患者層が見込まれるため、使用を推奨していきたい。
- (委員意見) 肝がん・重度肝硬変治療研究促進事業の助成対象が拡大されたが、一方で、対象患者数が伸び悩んでいる理由は何か。
- (委員意見) →助成対象の拡大により、対象となり得た患者数について実態調査を実施している。調査結果から理由が明らかになると考えられる。
- (委員意見) →現在の対象患者数は現実的な数と考えているか。
- (委員意見) →対象患者数には病院間格差があるともいわれており、各病院における取組を病院間で共有する必要がある。

### (3) 閉会